

大齋節第 4 主日

聖書日課と主教のメッセージ



Rabboni, I want to see

日本聖公会東京教区
東京聖三一教会

2020.3.22 大齋節第 4主日

大齋節第 4主日特祷

恵み深い父なる神よ、み子はすべての人のまことの命のパンとなるために、天からこの世に降られました。どうか命のパンによってわたしたちを養い、常に主がわたしたちのうちに生き、わたしたちが主のうちに生きられるようにしてください。父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられる主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

旧約聖書 サムエル記上 16:1-13

主はサムエルに言われた。「いつまであなたは、サウルのことを嘆くのか。わたしは、イスラエルを治める王位から彼を退けた。角に油を満たして出かけなさい。あなたをベツレヘムのエッサイのもとに遣わそう。わたしはその息子たちの中に、王となるべき者を見いだした。」サムエルは言った。「どうしてわたしが行けましょうか。サウルが聞けばわたしを殺すでしょう。」主は言われた。「若い雌牛を引いて行き、『主にいけにえをささげるために来ました』と言い、いけにえをささげるときになったら、エッサイを招きなさい。なすべきことは、そのときわたしが告げる。あなたは、わたしがそれと告げる者に油を注ぎなさい。」サムエルは主が命じられたとおりにした。彼がベツレヘムに着くと、町の長老は不安げに出迎えて、尋ねた。「おいでくださったのは、平和なことのためでしょうか。」「平和なことです。主にいけにえをささげに来ました。身を清めて、いけにえの会食と一緒に来てください。」サムエルはエッサイとその息子たちに身を清めさせ、いけにえの目会食に彼らを招いた。彼らがやって来ると、サムエルはエリアブに目を留め、彼こそ主の前に油を注がれる者だ、と思った。しかし、主はサムエルに言われた。「容姿や背の高さにを向けるな。わたしは彼を退ける。人間が見るようには見な

い。人は目に映ることを見るが、主は心によって見る。」エッサイはアビナダブを呼び、サムエルの前を通らせた。サムエルは言った。「この者をも主はお選びにならない。」エッサイは次に、シャンマを通らせた。サムエルは言った。「この者をも主はお選びにならない。」エッサイは七人の息子にサムエルの前を通らせたが、サムエルは彼に言った。「主はこれらの者をお選びにならない。」サムエルはエッサイに尋ねた。「あなたの息子はこれだけですか。」「末の子が残っていますが、今、羊の番をしています」とエッサイが答えると、サムエルは言った。「人をやって、彼を連れて来させてください。その子がここに来ないうちは、食卓には着きません。」エッサイは人をやって、その子を連れて来させた。彼は血色が良く、目は美しく、姿も立派であった。主は言われた。「立って彼に油を注ぎなさい。これがその人だ。」サムエルは油の入った角を取り出し、兄弟たちの中で彼に油を注いだ。その日以来、主の霊が激しくダビデに降るようになった。サムエルは立ってラマに帰った。

日課詩篇 第 23 篇

- 1 主はわたしの牧者 // わたしは乏しいことがない
- 2 神はわたしを緑の牧場に伏させ // 憩いの水辺に伴われる
- 3 神はわたしの魂を生き返らせ // み名のゆえにわたしを正しい道に導かれる
- 4 たとえ死の陰の谷を歩んでも、わたしは災いを恐れない // あなたがわたしとともにおられ、あなたの鞭と杖はわたしを導く
- 5 あなたは敵のしている前でわたしのために食卓を整え // わたしの頭に油を注ぎ、わたしの杯を満たされる
- 6 神の恵みと慈しみは、生きています限り、わたしに伴い // わたしは永遠に主の家に住む

使徒書 エフェソの信徒への手紙 5:8-14

あなたがたは、以前には暗闇でしたが、今は主に結ばれて、光となっ

ています。光の子として歩みなさい。——光から、あらゆる善意と正義と真実とが生じるのです。——何が主に喜ばれるかを吟味しなさい。実を結ばない暗闇の業に加わらないで、むしろ、それを明るみに出しなさい。彼らがひそかに行っているのは、口にするのも恥ずかしいことなのです。しかし、すべてのものは光にさらされて、明らかにされます。明らかにされるものはみな、光となるのです。それで、こう言われています。「眠りにについている者、起きよ。死者の中から立ち上がれ。そうすれば、キリストはあなたを照らされる。」

福音書 ヨハネによる福音書 9:1-13, 28-38

さて、イエスは通りすがりに、生まれつき目の見えない人を見かけられた。弟子たちがイエスに尋ねた。「ラビ、この人が生まれつき目が見えないのは、だれが罪を犯したからですか。本人ですか。それとも、両親ですか。」イエスはお答えになった。「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるためである。わたしたちは、わたしをお遣わしになった方の業を、まだ日のあるうちに行わねばならない。だれも働くことのできない夜が来る。わたしは、世にいる間、世の光である。」こう言ってから、イエスは地面に唾をし、唾で土をこねてその人の目にお塗りになった。そして、「シロアム——『遣わされた者』という意味——の池に行って洗いなさい」と言われた。そこで、彼は行って洗い、目が見えるようになって、帰って来た。近所の人々や、彼が物乞いであったのを前に見ていた人々が、「これは、座って物乞いをしていた人ではないか」と言った。「その人だ」と言う者もいれば、「いや違う。似ているだけだ」と言う者もいた。本人は、「わたしがそうなのです」と言った。そこで人々が、「では、お前の目はどのようにして開いたのか」と言うと、彼は答えた。「イエスという方が、土をこねてわたしの目に塗り、『シロアムに行って洗いなさい』と言われました。そこで、行って洗ったら、見えるようになったのです。」人々が「その人はどこにいるのか」と言うと、彼は「知りません」と言った。人々は、前に盲人で

あつた人をファリサイ派の人々のところへ連れて行った。

そこで、彼らはののしって言った。「お前はあの者の弟子だが、我々はモーセの弟子だ。我々は、神がモーセに語られたことは知っているが、あの者がどこから来たのかは知らない。」彼は答えて言った。「あの方がどこから来られたか、あなたがたがご存じないとは、実に不思議です。あの方は、わたしの目を開けてくださったのに。神は罪人の言うことはお聞きにならないと、わたしたちは承知しています。しかし、神をあがめ、その御心を行ふ人の言うことは、お聞きになります。生まれつき目が見えなかった者の目を開けた人がいるということなど、これまで一度も聞いたことはありません。あの方が神のもとから来られたのでなければ、何もおできにならなかつたはずです。」彼らは、「お前は全く罪の中に生まれたのに、我々に教えようというのか」と言い返し、彼を外に追い出した。イエスは彼が外に追い出されたことをお聞きになった。そして彼に出会うと、「あなたは人の子を信じるか」と言われた。彼は答えて言った。「主よ、その方はどんな人ですか。その方を信じたいのですが。」イエスは言われた。「あなたは、もうその人を見ている。あなたと話しているのが、その人だ。」彼が、「主よ、信じます」と言って、ひざまずいた。

大齋節第四主日の黙想

主教 フランシスコ・ザビエル 高橋宏幸

今日の福音書には生まれつき目の不自由な人が登場し、重要な役割を担っていますが、このような人が当時の社会でどのように見られてきたかとなりますと、気の毒にといった同情よりも、神様に見捨てられた

輩として酷い扱われ方を余儀なくされ、神に呪われている徴とまで決めつけられていました。

そうなりますと、次に人々が考え出すのは「この呪いは誰のせいなのか？」という犯人探しらしきことです。そのように同情や憐れみよりも、原因追求、原因究明に人々の関心は向けられ始めます。しかも、この男は、物乞いをして暮らしていたということは、他の人からも世話をして貰えない状況と言えましょう。

親にしても、どうしてこのような子が、よりによって自分たちのもとに生まれたのかと嘆いている様子が福音書から窺い知れます。そして、この人自身も「何故、自分だけが、このような目に遇うのか？」と悩んだでしょう。周りの人たちに於いても「何故、この男は生まれつき目が見えないのか？」「ひょっとして、親に問題があったのではなからうか？」「そうなら、何故親にでは無しに、罰や呪いが子の身に降りかかるのか？」と考えあぐねたことでしょう。弟子たちも、イエス様に問い掛けます。「この人が、生まれつき目が見えないのは、だれが罪を犯したからですか、本人ですか、それとも両親ですか？」と。イエス様は答えられます。「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人の上に現れるためである」と。罷り間違えると、神様の栄光のためにこの男が恰も犠牲者となったかのように受け取られかねませんが、イエス様はあくまで神様の栄光ということを言われます。

イエス様が泥を捏ね、その泥を目に塗ったことでしたが、一言「開け！」とおっしゃれば十分だったのではないのでしょうか。目に手を当てるだけでも良かったのではないのでしょうか。でも、イエス様はわざわざ土を捏ねて泥を作り、それを目に塗られます。二重に見えない、闇の上に闇を重ねられたような状態でシロアムの池へ行くように命じられます。シロアムとは「神様から遣わされた」という意味ですが、イエス様ご自身神様から遣わされた方という意味からしてシロアムで在られます。

その意味で、「シロアムに行きなさい」とは、神様から遣わされた方に向かって突き進みなさいということであり、その方の力を、心を、憐れ

みを存分に受けなさいと言えましょう。その瞬間、我が身に注がれているイエス様のお働きが見え始めてきました。自分の在るべき姿、進むべき道、目指すべき方がより鮮やかに見え始めてきました。

間もなく私たちは、神様の最大級の栄光であるイエス様のご復活に与ろうとしています。そのイエス様の甦りが、神様による私たちのための栄光として見えるように、更なる備えを整えていきたいものです。